

Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.22 中国語担当 角さん

◆なぜ医療通訳者になった？

親戚と友人の中に医師がおり、昔から通訳の仕事に憧れていました。医療通訳は難しいだろうなと思いつつも、通訳者として携われれば嬉しいと思い、医療通訳者になることに興味を持ちました。

◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

以前通訳を担当した「もやもや病」の患者さんは、すでに中国の名医やアメリカの有名病院で手術が必要と診断されていました。患者さんはまだ50代で、講師の仕事ができていて、これからの生活の質を下げるリスクがある手術は、なかなか決心することができず、来日することに決めたとのことです。理由は、「もやもや病」は日本人が命名した病気なので、日本は手術をするかしないかの決め手となる国だと考えたそうです。国内の専門医療機関で診察してもらい、手術しなくても良いとの結果を全部数値できちんと説明を受けて、納得されました。

それから4年経ち、患者さんは元気で仕事を続けているそうです。医師との協力で外国人の患者さんが日本の医療レベルの高さを的確な診断に納得いただけたことは、医療通訳者としての醍醐味だと実感しました。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

日々の勉強と医療に興味を持つことが大事だと思います。医療通訳に必要とされる単語量、専門性、範囲の広さなどいろいろ難しすぎると思うことが時々あります。その時こそ医療通訳の役割、重要さを再確認して、頑張らないといけなくて改めて感じます。医療関係のテレビ番組を見たり、分かりやすい書籍を探して勉強しています。



「霞」 — この漢字、読めますか？

これは「つちふる」と読みます。大陸から黄砂が飛来する、の意味で俳句の季語にもなっています。今年は黄砂の当たり年と言われ、大変な思いをされた方もいらっしゃるのでは？

この漢字、本場中国でもひと昔前はほとんど見なかったのですが、PM2.5の報道が盛んになるにつれ、気象用語としてこの季節は連日のように目にするようになりました。「霧霾指数（ウーマイジーシュウ）」スモッグ指数という意味です。

英語では「霧」を表す「fog/mist」以外に「Haze（ヘイズ）」という言葉があります。東南アジアの焼き畑農業や森林火災による煙害をいう時に使います。黄砂と違って乾季の秋ごろに、シンガポールやマレーシアで「なんか煙くさい」臭いがしたらHazeかもしれません。

ところで、この漢字、雨かんむりにタヌキという字ですが、「けものへん」ではなくて「むじなへん」のタヌキです。黄砂の影響で視界不良？よくご確認ください、タヌキに化かされますよ😊



今月のピックアップ

「感染症」

思えば新型コロナが流行しだした頃、正式な表記が「COVID-19」と知り、このコロナ禍は2019年からいつまで続くのだろうと思ったものでした。足掛け5年、日本ではついに新型コロナの感染症法上の位置づけが2類から5類へ引き下げられましたね。

もちろん、5類になったからと言ってこのウイルスが終息したわけではありません。また、ひと言で「感染症」と言っても結核やエイズ、少し前に日本でも初めて確認されたデング熱など、「感染症」と呼ばれる病気は数えきれないほどあります。新型コロナのように、今後新しい脅威がまた出現するかもしれません。私たちも、以前ご紹介した勉強会で何度もこの勉強を重ねました。実際に新型コロナでクラスターが発生した時には、連日通訳の依頼があって、「感染症」と向き合うことの難しさを体験してきました。

あらためてそこで感じたのが、医療通訳の大切さです。ウイルスや細菌は人を選びません。人が動く、人と接する、人が集まることでどんどん感染が広がります。言葉が通じないからと言って検査も治療も受けられない人がいたとしたら、それはすぐにその地域全体の感染につながってしまいますよね。コロナ禍から学んだことの一つ、それは私たち医療通訳者の存在理由だったように思います。

